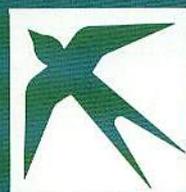
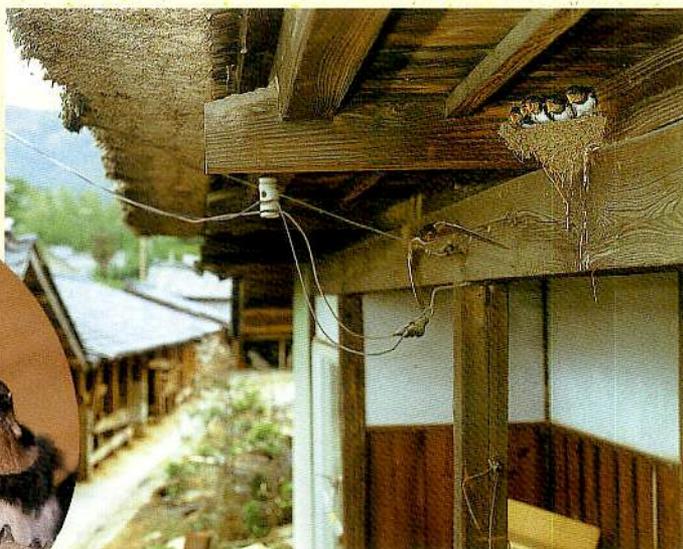


身近な  
'97 生きもの  
調査



●調査のてびき●





## 目次

はじめに .....	2
調査の概要 .....	3
調査の進め方 .....	4
調査するのはこんな鳥	
① ツバメ .....	5
② コシアカツバメ .....	6
③ イワツバメ .....	7
④ リュウキュウツバメ .....	8
⑤ ヒメアマツバメ .....	9
調査票の記入のしかた .....	10
その他のツバメ .....	15

## はじめに

このてびきを手にされたあなたは、自然に大変興味をお持ちの方でしょうか、それともこの調査のことをお聞きになって、初めて自然に目を向けようと思われた方でしょうか。みなさん、それぞれの思いがあることと思います。

このてびきは、調査のやり方やツバメの巣の見分け方などについて説明したものです。調査を始める前に、ひととおり目をとおしておいてください。わかりにくい点は、どうぞご遠慮なく、自然環境調査室へお問い合わせください。

今回の調査が、みなさんの身の回りの自然をもう一度見つめ直すきっかけになればと、願っています。実際に調査を始めてみると、分からなくなったり、とまどったりすることもあるかと思いますが、調査期間は十分にありますので、じっくりと、みなさんのペースでやってみてください。

## 身近な環境を見直してみよう

ツバメは、春になると南の国から渡ってくる夏鳥です。水辺を軽やかに飛び回るその姿に、春を感じる人も多いことでしょう。

ツバメ類は、私たちのいちばん身近なところで巣を作っている野鳥でもあります。通りを歩いていると、商店の軒下やアーケードにツバメの巣が見つかり、郊外に出ると、橋げたにイワツバメが集団で巣を作っています。

身近な鳥であるツバメ類ですが、その世界にも変化が起こっています。市街地で普通に見られたツバメの巣がすっかり少なくなっています。山小屋の建物などに巣を作っていたイワツバメは1970年代から市街地に進出し、橋げたや学校などで巣が見られるようになりました。

こうしたツバメ類の分布の変化には、二つの要因が関わっています。一つは、都市化の進行による自然環境の変化です。もう一つはツバメ類自身の習性の変化で、それは都市化に対する適応とみることができます。今回の調査の第一の目的は、それぞれの種類の全国的な分布の状況をしっかりと把握して、その変化の実態をつきとめることです。

ツバメ類が種類によって巣を作る場所や環境がどのくらい違っているか、その違いに地域的な差があるかを調べることも調査の目的の一つです。ツバメ類の繁殖が途中で失敗する原因についても情報を集めます。

また、かつてはツバメ類が巣を作ることはどこでも歓迎されていました。しかし、最近では糞が落ちることで嫌われることも多くなっているようです。ツバメに対する人の気持ちも調べてみたい点の一つです。

こうした調査を通じて、これからもツバメ類が私たちの身近な鳥として生き続けていけるためにはどんな配慮が必要なのかを考えていきたいと思っています。

# 調査の概要

## 調査に使う資料

### ①調査のてびき

今、お読みいただいているこの冊子です。この冊子には、大きく分けて、調査全体の流れ、調査のやり方、調査結果の返送方法などが書いてあります。

調査を始める前にひととおりにお読みいただき、このてびきに従って調査を進めてください。

### ②調査票

調査結果を環境庁に報告するための用紙です。建物や巣の写真も貼ってお送りください。なお、お送りいただいた写真はお返しすることはできません。あらかじめご了承ください。

P10～14 の記入例を参考にしてください。

### ③アンケート用紙

調査結果とは別に、参加形態や人数などについておたずねする用紙です。差し支えない範囲でご記入いただき、調査票と一緒にお願いします。

### ④返送用封筒

調査結果を記入した調査票を環境庁に返送するときに使う封筒です。

## 調査する範囲

調査はできる範囲で進めてください。あらかじめ決められた調査範囲(場所)というものはありません。また、調査対象となっているすべてのツバメ類を調べる必要はありません。あなたが調べた場所で撮影できたツバメ類の巣の写真だけを調査票に貼って送ってください。

## 調査票の返送期限

1997年(平成9年)8月31日(消印有効)までに、まとめてご返送ください。

## 集計と調査結果の発表

みなさんから寄せられた調査票のデータは、コンピューターに入力され、各種ごとの集計を行うとともに、全国あるいは地域ごとの分布図(生きもの地図)が作成されます。みなさんから寄せられたデータをもとに分布図を作成することによって、生きものから見た身近な自然の状況や都市化の影響などがわかるわけ

①調査のてびき



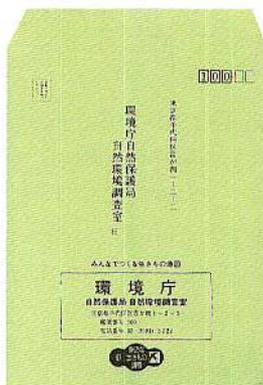
②調査票



③アンケート用紙



④返送用封筒



です。

こうした調査結果は新聞やテレビを通してお知らせするとともに、調査票をお寄せいただいたみなさんには、できるだけ早く分布図などを盛り込んだ「報告書」をお届けします。

# 調査の進め方

## なにを探すの？

春になると姿をあらわす身近な鳥、ツバメの「巣」を探します。「ツバメ」とひとくちにいっても、日本にはツバメ科の5種と、アマツバメ科の3種の計8種がいます。今回は、これらのなかで、私たちがふだん見ることができ、建物などに巣を作る5種(ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、リュウキュウツバメ、ヒメアマツバメ)の巣を探してください。

科名	種名	調査対象種
ツバメ科	ツバメ	①
	コシアカツバメ	②
	イワツバメ	③
	リュウキュウツバメ	④
	ショウドウツバメ	—
アマツバメ科	ヒメアマツバメ	⑤
	アマツバメ	—
	ハリオアマツバメ	—

「ツバメの巣を探している」と断って、了解をもらってから調査しましょう。商店の場合も、お店の人に話した方がよいですね。

## 持ち物

特別な道具はいりません。まずは手ぶらで出かけてみましょう。

巣のある場所が分かったら、今度は記録用紙と筆記用具とカメラを持って行きましょう。カメラは、一眼レフのようなものなら申し分ありませんが、コンパクトカメラやレンズ付きフィルム(使い捨てカメラ)でも十分記録できます。

なお、ツバメの巣が暗い場所にあるときは、ストロボ(発光器)付きのカメラを使うと写真ははっきりと撮影できます。

## 記録のしかた

まず、調査票を見ながら、建造物について、その種類や環境を記録します。次に、全体の写真をとります。建物が個人のお宅や商店などの場合は、かならずその家の方などに許可をもらうようにしましょう。もし不在だったら、もう一度出かけて許可をとるようにしましょう。

次に、くわしく観察する巣を1つか2つ選びます。巣の作られている位置などについて、調査票に記入できたら、巣の写真をとります。

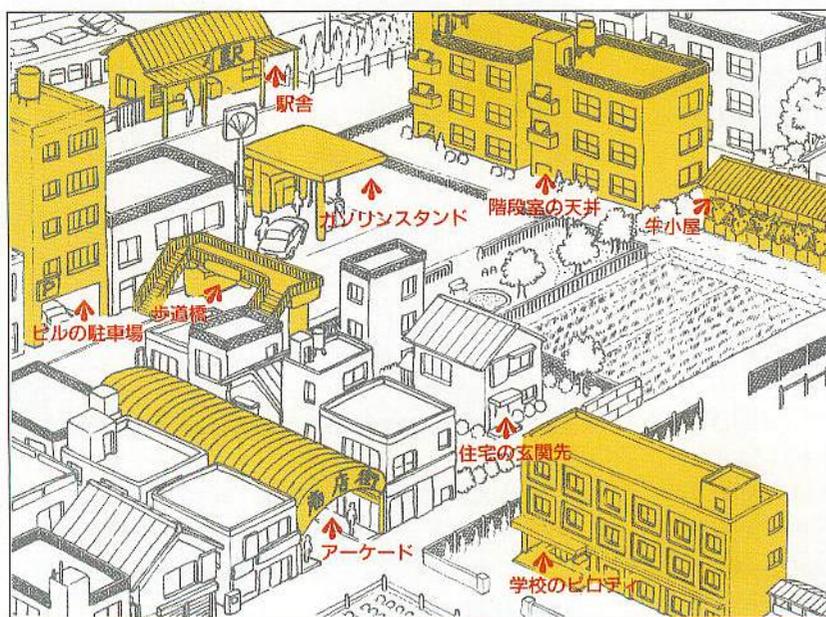
(写真のとり方は、P12~13を読んでください。)

## 何回か出かけよう

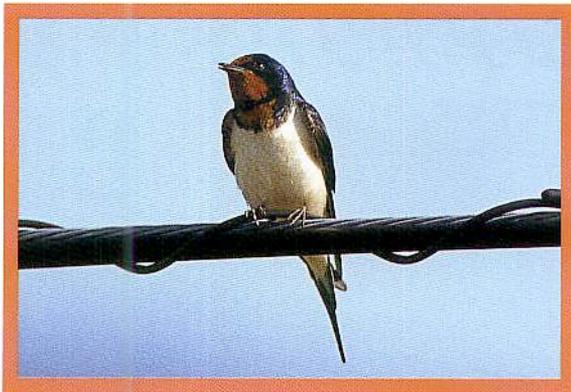
くわしい記録をとることにした巣は、できるだけ何回かかけて、親鳥のようすやヒナの育ち具合などを観察して調査票に書き込むようにしましょう。

## どこを探すの？

まず町へ出たら、ツバメが飛び回っているかどうか気に付けてみましょう。もしその姿が見つかったら、できる限りその動きに目を配り、追跡していきます。すると、建物や橋の中にスッと姿を消すの気がつくでしょう。きっとそこに巣があります。巣のありそうな場所の見当がいたら、早速そこに行って、どこに巣が作られているかを探してみましょう。役所や駅、あるいは橋げたのような場所なら自由に出入りができますが、人家や牛舎などの場合にはかならずその家の方に、



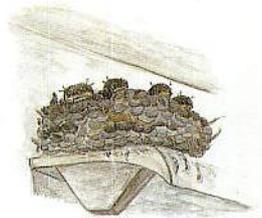
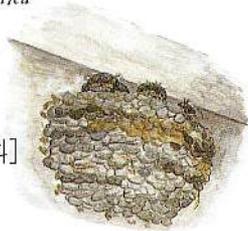
■巣の見られる場所



# ツバメ

*Hirundo rustica*

[ツバメ科]



北海道～九州

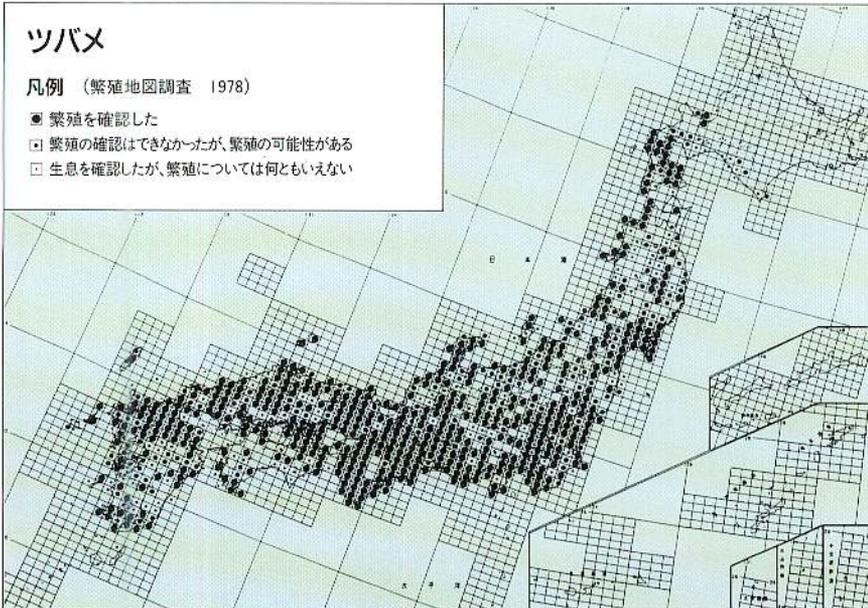
体長17cm。もっとも身近に見られるツバメ科の鳥で、背中黒く、長い尾を広げると白い斑点が見えます。喉は赤く、その下に黒い帯があります。夏鳥で、3月下旬から4月上旬頃に日本に渡ってきます。空中を巧みに飛び回って虫をとらえて餌にします。もともとは岩壁や洞窟に巣を作っていたと考えられますが、現在では人家のような建造物でしか巣が見つかりません。巣は垂直な壁に作る「カップ型」のものと、建物の梁や電灯などの上に乗せて作る「皿型」のものがあり、どちらの場合も上が大きく開いているので、ヒナの姿をよく見ることができます。巣の材料には、他のツバメ類と同じように泥と枯れ草を使います。



## ツバメ

凡例 (繁殖地図調査 1978)

- 繁殖を確認した
- 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある
- 生息を確認したが、繁殖については何ともいえない



### ■1978年の分布図

1978年の全国調査の結果を見ると、ツバメは南西諸島をのぞく全国に広く分布しており、佐渡、対馬などの島々でも繁殖しています。しかし、北海道でも繁殖だけに分布が限られています。今回の調査では、とくに都市周辺でどのくらい減っているか、一方、東北地方や北海道でどのくらい分布が広がっているかが、興味を持たれる点です。

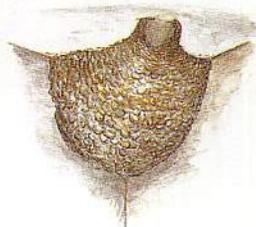
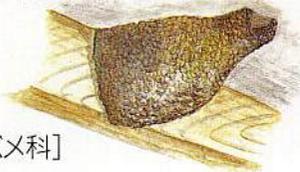


## コシアカツバメ

*Hirundo daurica*

[ツバメ科]

北海道～九州



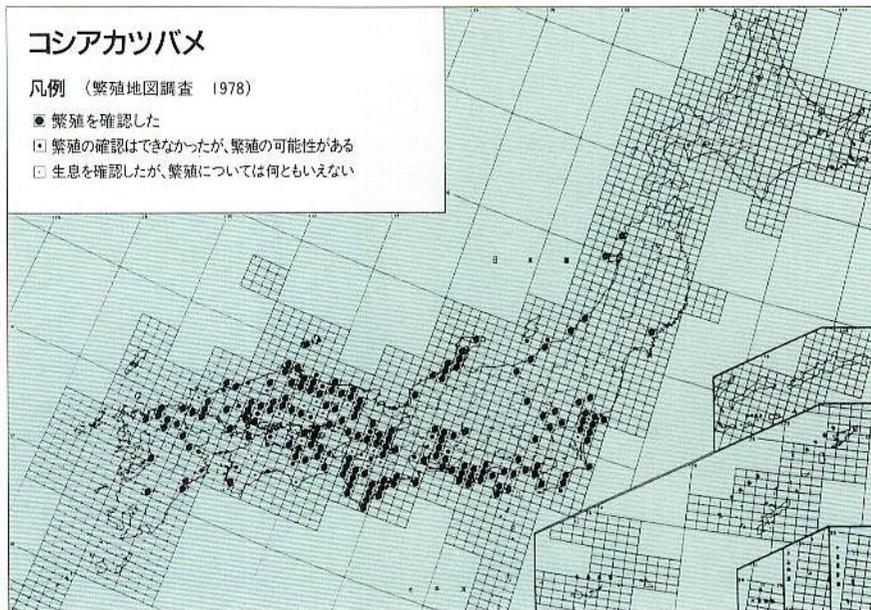
体長18.5cm。長い尾をした姿はツバメによく似ていますが、腰は淡い赤茶色で、胸にははっきりした黒い縦すじがあります。夏鳥で、ツバメよりもやや遅く4月下旬頃に日本に渡ってきます。ツバメよりも空の高いところをゆったり飛び回って、餌になる虫を探しています。大きな建物の吹き抜けになった部分や、高層住宅の階段室などの天井に、「トックリ型」の巣を作ります。巣の入り口はトンネルのように伸びているので、中のヒナの顔を見ることはできません。コシアカツバメの巣はしばしば他の鳥に利用されますが、入り口に羽毛がはりつけられていたらヒメアマツバメ、枯れ草がたれ下がっていたらスズメが利用していることがわかります。



### コシアカツバメ

凡例 (繁殖地図調査 1978)

- 繁殖を確認した
- 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある
- 生息を確認したが、繁殖については何ともいえない



#### ■1978年の分布図

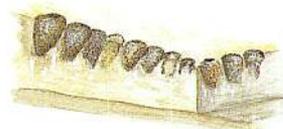
西日本に分布の中心があり、中部地方より北では、おもに海岸沿いで繁殖しています。関東平野では内陸部にも分布していますが、こうした広がりも他の地方でも見られるのかどうか、興味を持たれます。なお、1978年の調査では北海道での繁殖は確認されていませんが、礼文島と根室で巣が見つかったことがありますから、北海道でも注意して探してみてください。

# イワツバメ

*Delichon urbica*

[ツバメ科]

北海道～九州



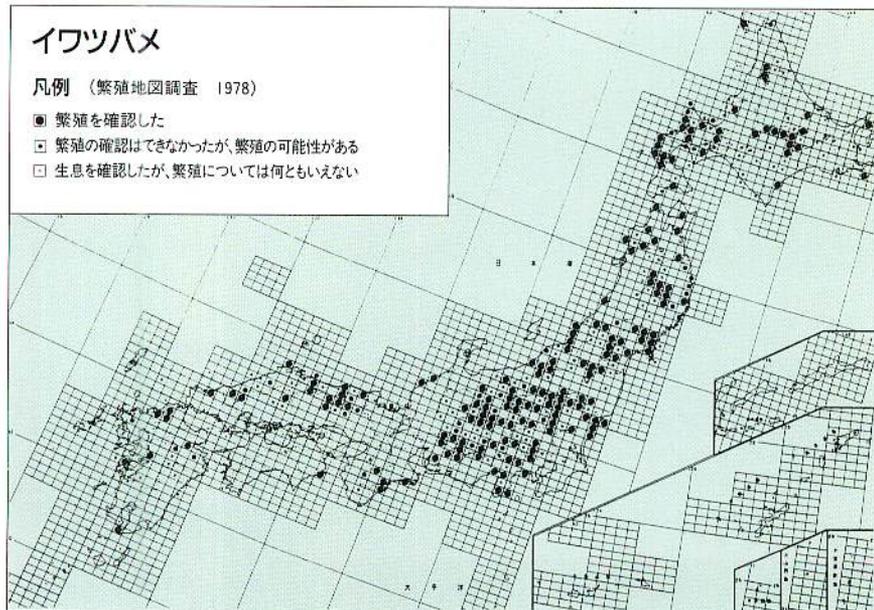
体長14cm。背中が黒くて腰の白いツバメ科の鳥で、下面は全体に白く見えます。ツバメよりも尾が短く、ジュリジュリと鳴きながら、高い空を群れて飛び回るのが見られます。夏鳥で、ツバメよりもやや早く3月下旬には姿を見せます。高山や海岸の岩壁に巣を作っていることもありますが、現在では学校の校舎のような大きな建物や橋げたに巣を作ることの方がずっと多くなっています。巣の形は「カップ型」ですが、天井に接して作るので入り口は小さく、ヒナは顔だけしか見ることができません。他のツバメ類よりも集団で巣を作る性質が強く、1つの建物で数百の巣が見られることも少なくありません。



## イワツバメ

凡例 (繁殖地図調査 1978)

- 繁殖を確認した
- 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある
- 生息を確認したが、繁殖については何ともいえない



### ■1978年の分布図

イワツバメは、北海道から九州まで広く分布していますが、中部地方より北に分布の中心があり、西日本では限られた地域でしか見られません。近年、とくに都市部で分布が拡大している地方があるので、今回の調査でその拡大のようすが確認できることが期待されます。1978年の調査では分布が空白だった瀬戸内地方でも巣を見つけたいのです。

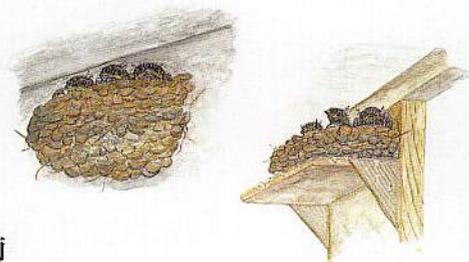


# リュウキュウツバメ

*Hirundo tabitica*

[ツバメ科]

奄美諸島以南



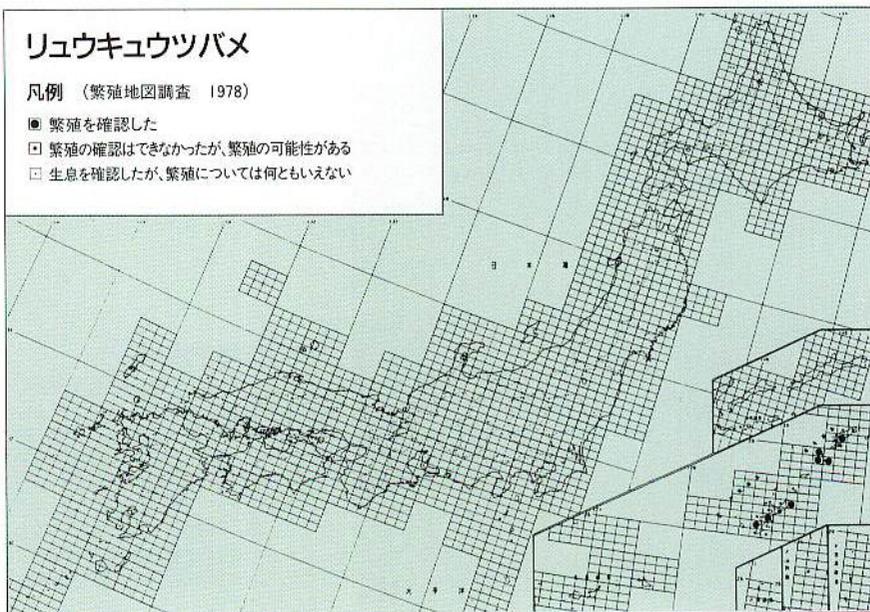
体長13cm。南西諸島だけで見られる小型のツバメ科の鳥です。顔の色や模様はツバメにそっくりですが、胸から腹は汚れた色をしており、全体に黒っぽく見えます。尾は短めで、電線にとまっているところを下から見ると下側が白と黒のまだら模様に見えます。おもに人家や橋げたなどに巣を作りますが、ツバメと違って自然の崖や洞窟などにも巣を作ることがあります。巣の形はツバメとよく似ていて、やや小型です。他のツバメ類と違って留鳥なので、川や水田の上を飛び回る姿を一年中見ることができます。なお、沖縄県の来間島ではツバメの巣が見つかったので、種類の見分けには(P5 参照)十分注意してください。



## リュウキュウツバメ

凡例 (繁殖地図調査 1978)

- 繁殖を確認した
- 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある
- 生息を確認したが、繁殖については何ともいえない



### ■1978年の分布図

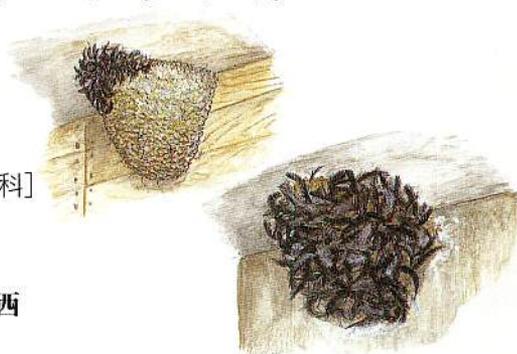
奄美大島より南の南西諸島の島々に分布しています。1978年の調査では石垣島などの八重山諸島では巣が見つかっていませんが、それ以前に少数の記録があるので、注意して探してみてください。南西諸島には小さな島々が多くありますが、どの島で繁殖しているかを、一つひとつの島について明らかにすることが重要です。こまめに記録してください。

# ヒメアマツバメ

*Apus affinis*

[アマツバメ科]

関東地方以西



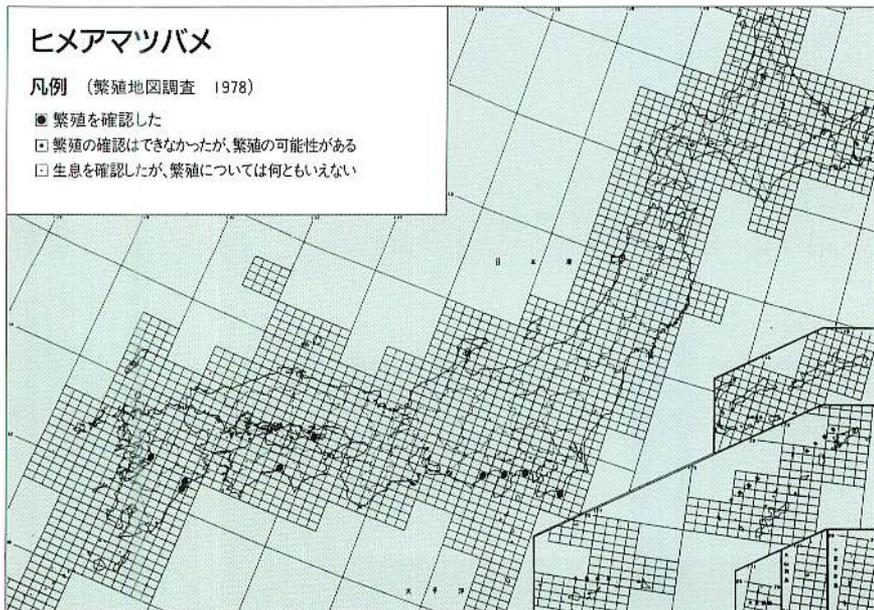
体長13cm。ツバメ科の鳥と姿は似ていますが、縁の遠いアマツバメ科に属しています。体長はイワツバメと同じくらいですが、翼が長いのでずっと大きく見えます。全体が黒っぽく、白い腰だけが目立ちます。巣は、多くの場合はコシアカツバメの古巣を利用しますが、イワツバメの巣を使うこともあります。どちらの場合も、巣の入り口に羽毛をはりつけているので、それと分かります。なお、コシアカツバメやイワツバメの巣の入り口から枯れ草がたれ下がっているのは、スズメが利用している場合です。ヒメアマツバメは他の種類の鳥の巣を使わない場合には、空中を飛びながら集めた羽毛と枯れ草を、唾ではりあわせて巣を作ります。



## ヒメアマツバメ

凡例 (繁殖地図調査 1978)

- 繁殖を確認した
- 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- 生息を確認したが、繁殖については何ともいえない



### ■1978年の分布図

日本では1967年に静岡県で初めて繁殖しているのが記録され、1978年の調査では千葉県から宮崎県までの太平洋岸で点々と巣が見つかりました。その後、茨城県、沖縄県などでも繁殖していることが報告されており、関東地方以西には相当広く分布していると思われます。今回の調査で、分布の拡大のようすを裏付けたいものです。

# 調査票の記入のしかた

（調べていただいたことは、すべて調査票へ記入して提出していただけます。）  
（写真も調査票に貼ってください。各記入項目のくわしい説明は、P11～14）  
に解説してありますので、よく読んで記入してください。

11  
ページ

●調査票●

■果のあった場所の名前 **本郷商店**

■果のあった場所の地名または住所

東京  道  府・県  市・町・村

文京

本郷4丁目

同定結果を  
知りたい人は  
このハガキに  
記入してください。

あなたから送っていただいたツバメの巣の写真は、つぎの種類のものでした。

■巣のあった場所の名前 **本郷商店**

■ツバメの種類 写真①

写真②

<input type="checkbox"/> パタ	<input type="checkbox"/> ココアカツバメ	<input type="checkbox"/> イワツバメ
<input type="checkbox"/> シュウキョウツバメ	<input type="checkbox"/> ヒメアマツバメ	
<input type="checkbox"/> ツバメ	<input type="checkbox"/> ココアカツバメ	<input type="checkbox"/> イワツバメ
<input type="checkbox"/> シュウキョウツバメ	<input type="checkbox"/> ヒメアマツバメ	

11  
ページ

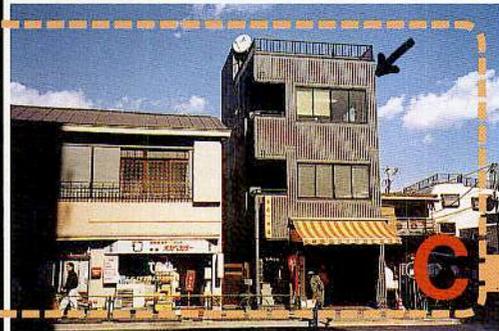
14  
ページ

1. まわりの環境 2. 巣のあった建造物の種類

商店やお家の方にインタビュー

「フタ注意」の貼紙を貼る

建造物全体の写真



12  
ページ

14  
ページ

1. ツバメの種類 2. 巣のようす

3. くらしのようす(子育てのすみ具合)

4. 途中でダメになった場合の原因

巣の写真①



13  
ページ

巣の写真②

同じ建造物内で巣が2つ以上あった場合、P13～14を参照のうえ、上の欄(巣の写真①の欄)と同様に写真を貼ってください。

# A 巣のあった場所

ツバメ類の巣が見つかったら、まず巣のあった建造物がどこにあるかを正確に記録してください。これは、ツバメ類のそれぞれの種についてくわしい分布図を作るために必要な情報です。

巣のあった場所の名前には、「〇〇市役所」「〇〇病院」「〇〇商店」「〇〇さんの家」「〇〇橋」などと具体的に書いてください。次にその建造物のある場所の地名または住所を書いてください。分布図を作るためには、この地名がもっとも重要です。建物の場合には住所を調べてそれを書くのがいちばん確実です。調べた人の住所ではなく、巣のあった場所の住所ですから間違いのないようにしてください。なお、橋の場合も川の名ではなく、そのあたりの地名（どちらの岸の地名でもかまいません）を書きましょう。

参加者番号は10ケタです。

## 記入例

ここには記入しないでください。

身近な生きもの調査 '97

参加者番号 0130038240

●調査票● ■氏名 山川みどり

■巣のあった場所の名前 本郷商店

■巣のあった場所の地名または住所

東京	都	道	市・町・村
	郡	文京	(特別区・政令指定都市の場合はみ記入)
		本郷4丁目	

(都のある場合はみ記入)

# B 同定結果を知りたい人は

今回の調査では、皆さんから送っていただいた巣の写真を専門家が調べて、どの種のものかを確認します。その結果が皆さん自身の判断と同じだったかどうか知りたい人は、ハガキの部分に返信先のあて先を書き、50円切手をはってください。

あなたから送っていただいたツバメの巣の写真は、つぎの種類のものでした。

同定結果を知りたい人はこのハガキに記入してください。

■巣のあった場所の名前 本郷商店

■ツバメの種類 写真①

<input type="checkbox"/> ツバメ	<input type="checkbox"/> コシアカツバメ	<input type="checkbox"/> イワツバメ
<input type="checkbox"/> ネリウケウツバメ	<input type="checkbox"/> ヒメアマツバメ	

写真②

<input type="checkbox"/> ツバメ	<input type="checkbox"/> コシアカツバメ	<input type="checkbox"/> イワツバメ
<input type="checkbox"/> ネリウケウツバメ	<input type="checkbox"/> ヒメアマツバメ	

★裏面に必ず、おとこ、お名前を書き、50円切手を貼ってください。

表面

巣のあった場所の名前の欄に記入し、ツバメの種名の欄に○をひとつつけてください

## 記入例

裏面

郵便はがき

50円切手を貼ってください

220

〒100 東京都千代田区豊が岡 1-2-12  
自然環境調査室

神奈川県横浜市中区菅原町18-1

山川みどり

# C 巣のあった建物や建造物

次に、建造物のまわりの環境やその種類について記入してください。これは、ツバメ類のそれぞれの種が巣を作るのにどんな環境の、どんなようすの建造物を選んでいるかを知るための記録です。

まわりの環境は、建造物の前に立ってあたりを視察して、いちばん広い範囲を占めている環境を答えてください。普通の建物の場合には①から⑥の中

で選んでください。⑦と⑧は橋や高架、⑨は山小屋などであてはまることもあるでしょう。

なお、建物の種類の中で、「ビル」は駅ビルや会社、銀行の入ったビルなどの場合に選んでください。

その他を選んだ場合には、カッコの中にどんな建造物だったかを具体的に書いてください。

## 記入例

### 1. まわりの環境 2. 巣のあった建造物の種類

①ビル街	②商店街	①一戸建ての住宅	②1~2階建ての集合住宅	③3~5階建ての集合住宅
③家のたてこんだ住宅地	④緑の多い住宅地	④6階以上の集合住宅	⑤一戸建て商店	⑥ビル(会社、銀行、駅ビルなど)
⑤農村	⑥漁村	⑦官公庁	⑧駅、バスターミナル	⑨学校
⑦大きな川	⑧海岸	⑩ガソリンスタンド	⑪旅館	⑫山小屋
⑨山地		⑬牛舎	⑭豚舎	⑮その他( )
		①アーケード	②歩道橋	③コンクリート橋
		④鉄橋	⑤道路や鉄道の高架	⑥ダム
		⑦その他( )		

巣の見つかった建造物のまわりで、いちばん広い範囲を占めている環境を1つだけ選んで○をつけてください。

巣が建物で見つかった場合に、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

建物以外の建造物だった場合に、1つだけ選んで○をつけてください。

## 写真例

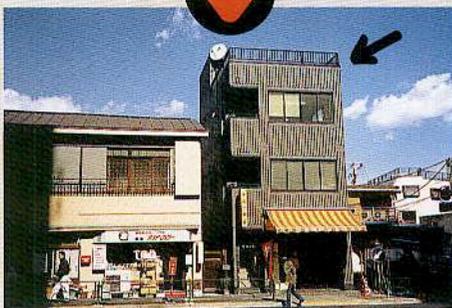
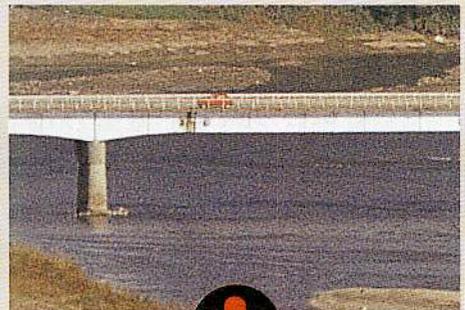
建物全体のようなすがつめるのが良い写真です。遠くから写しすぎると、どの建造物なのかがよく分かりません。またアップにしすぎると、何階建てかなどが分からなくなってしまいます。かならず地面から建造物のでっぺんまでを入れた写真にしてください。写真の必要な部分を切り取って貼ってもかまいません。どうしても他の建物などが写ってしまう場合には、写真のなかにマジックで矢印をつけて、どの建物なのかが分かるようにしてください。なお、写真をタテに写した場合には、同じようにヨコにして貼ってください。



近すぎて何階建てが分かりません(写真左)

× 悪い例

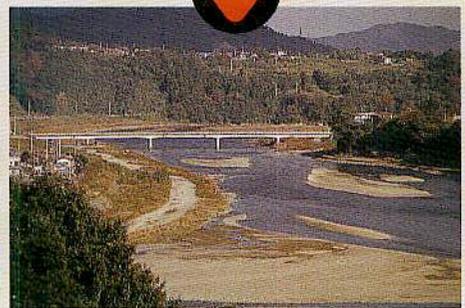
近すぎて、どれくらいの大きさが分かりません(写真右)



他の建物が写ってしまう場合には、写真のなかに矢印をつけることで、どの建物か分かります(写真左)

○ 良い例

橋などの建造物の%程度が写っていると、規模やまわりの環境が分かります(写真右)



# D 見つけたツバメの巣

その建造物で巣を作っているツバメの種類をこの手引きを参考に調べて○をつけてください。2種類以上巣が見つかった時は、見つかっただけ○をつけてください。

## 1. ツバメの種類

①ツバメ	②ロシアアカツバメ
③イワツバメ	④リュウキュウツバメ
⑤ヒメアマツバメ	

## 2. 巣のようす

A 建物	階数	①1階	②2階	③3～5階	
		④それ以上( )階			
	場所	①外壁	②軒やひさしの下	③室内	
		④階段室	⑤ガレージ		
		⑥その他( )			
状態		①カラザラの壁についている			
		②スペースの壁についている			
		③梁などに乗っている	④電灯などに乗っている		
		⑤その他( )			
	見え方	①外から見える	②見えにくい		
目撃など	状態	①壁についている	②梁などに乗っている		
		③電灯などに乗っている			
		④その他( )			
	見え方	①外から見える	②見えにくい		

## 記入例

巣が建物の何階にあったか、1つだけ選んで○をつけてください。

巣が建物のどこにあったか、1つだけ選んで○をつけてください。

巣がどんな状態についているか、1つだけ選んで○をつけてください。①と②は、垂直の壁に「カップ型」か「トックリ型」の巣がついている場合、③と④は浅い「皿型」の巣が何かの上に乗っている場合に選んでください。

巣が建造物の外から見えるかどうか、1つだけ選んで○をつけてください。

次にツバメの巣の一つひとつについてくわしく観察してください。建造物に1つか2つだけ巣があった場合には、それについて記録してください。3つ以上あった場合には、ヒナがいる、親鳥が出入りしている、巣の下に新しい糞が落ちているなど、なるべく今年ツバメ類が使っている証拠のある巣を2つ選んで記録してください。1つの建造物に2種のツバメの巣が見つかった時には、違う種類の巣を1つずつ観察の対象に選んでください。

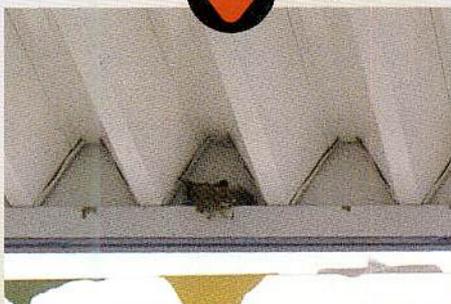
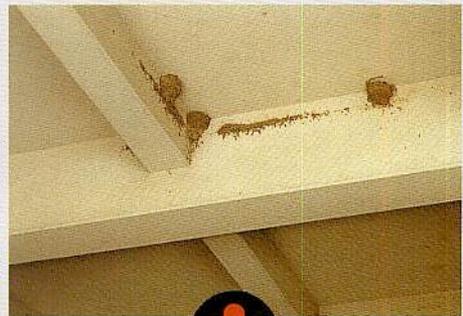
**写真例** およそ2mくらい離れた位置でとった巣の写真を貼ってください。建造物の中で暗い時は、できればストロボまたはフラッシュを使ってください。  
高い天井に巣を作っているような場合で、2mに近づけない場合には、できる範囲で結構です。  
なお、巣が複数ある場合には、観察した巣の写真にマジックで矢印をつけて分かるようにしてください。



遠すぎて巣がどこにあるか分かりません (写真左)

**✗ 悪い例**

巣が複数あるので、どの巣を観察したのかわかりません (写真右)



巣の状態がよくわかります (写真左)

**○ 良い例**

観察した巣に矢印をつけると、どの巣を観察したのかわかります (写真右)



# E 暮らしのようす

ツバメの巣の観察では、その巣が今年使われたかどうか、ヒナが巣立ったのかどうかを確認することが重要です。そのためには、1回で調査を終らせるのではなく、1週間か10日の間隔で何回か観察に行き、子育て(繁殖)の進み具合を記録してみましょう。親鳥の出入りなどが具体的に観察できた場合には、その日付を記録しましょう。かならず自分の観察している巣について記録するようにしてください。

イワツバメの場合には入り口が狭いので、巣の中のようすが分かりにくいのですが、ヒナが大きくなると顔をのぞかせるようになります。コシアカツバメとヒメアマツバメの場合には、ヒナの顔はまず見ることができません。巣の入り口の壁などに糞がつくのがヒナのいる重要な目印になります。

## 記入例

3. 暮らしのようす (子育てのすすみ具合)

巣の状態について	① 巣作り中	( ) 月 ( ) 日
	② 親鳥が出入りしている	( 4 ) 月 ( 27 ) 日
	③ 卵を抱いている	( 5 ) 月 ( 11 ) 日
	④ ヒナに餌を運んでいる	( 6 ) 月 ( 15 ) 日
	⑤ 不明	

4. 途中でダメになった場合の原因

① 人	② カラス	③ スズメ	④ ヘビ	⑤ 巣の落下
⑥ その他 ( )				⑦ 不明

親鳥が今年その巣を使っていることが確認できた場合に、それぞれの行動を観察した日付を書いてください。

巣はあるが親鳥が使っているかどうか確認できなかった場合に○をしてください。

もし、観察の途中で繁殖がうまくいかなかった場合、その原因がわかれば1つ選んでください。

# F インタビュー

商店や住宅にある巣では、その家の方がその巣についていちばんくわしく知っておられます。協力をお願いして、質問をさせていただきます。この『調査のてびき』を見せ、環境庁による全国的な調査であること、ツバメ類の分布や巣作りの習性についてくわしく知るための調査であることを話して協力をお願いしてください。

質問は調査票にある5つです。最後の質問は、何か特別の工夫をしておられる場合に書いてください。例えば「シャッターを朝早く開けるようにしている」、「糞よけにシートを張る」など、ツバメと人間生活のおりあいをつけるための工夫でもかまいません。インタビューの最後にはかならずお礼を言い、また観察させていたいただきたいとお願いしておきましょう。

## 記入例

商店やお家の方にインタビュー

- いつ頃から巣を作っていますか？
 

① 今年から	② <input checked="" type="radio"/> 1～5年前から	③ 6～10年前から	④ それより前から
--------	--	------------	-----------
- ヒナが巣立ちましたか？
 

① 今年巣立った	② <input checked="" type="radio"/> 昨年巣立った	③ 以前に巣立ったことがある
----------	---	----------------
- 途中で子育てがうまくいかなかった年は、何が原因でしたか？
 

① 人のいたずら	② カラスに襲われた	③ <input checked="" type="radio"/> スズメに巣をとられた	
④ ヘビに襲われた	⑤ 巣が落ちた	⑥ その他 ( )	⑦ 不明
- ツバメの巣をどんな気持ちで見えていますか？
 

① <input checked="" type="radio"/> 歓迎している	② 迷惑している	③ 特に関心はない	④ その他
---	----------	-----------	-------
- ツバメの巣作りについて、何か工夫していることがありますか？
 

「フン注意」の貼紙をしている

2と3は複数の○をつけてかまいません。

# その他のツバメ

日本で繁殖しているツバメ類とアマツバメ類には、今回の調査の対象にした5種の他に3種がいます。

これらは建造物に巣を作った記録はありませんが、飛んでいる姿はよく見かけます。

参考までに、それぞれの種の分布や習性を紹介しておきます。



## ショウドウツバメ *Riparia riparia*

ツバメ科の1種で体型はイワツバメによく似ていますが、背中は褐色で、胸にも茶色い帯があります。夏鳥として渡来し、北海道だけで繁殖しています。泥の崖に穴を掘って巣にしており、集団で繁殖するので、多くの個体が巣を作っている崖には無数の穴が開いています。本州より南では、渡りの季節だけに姿を見せます。



## アマツバメ *Apus pacificus*

アマツバメ科の代表で、鎌のような形をした翼で高速で飛ぶことができます。夏鳥として渡来し、高山や海岸の岩壁のすき間に巣を作ります。繁殖地は局地的ですが、飛んでいる姿は各地で見ることができます。ヨーロッパアマツバメは煙突などに巣を作ることが知られていますが、アマツバメではそうした例はまだ知られていません。



## ハリオアマツバメ *Chaetura caudata*

大型のアマツバメ科の鳥で、背中にほんやり白いところがあり、尾羽1枚1枚の軸の先が針のようにとがっているのが特徴です。夏鳥として渡来して北日本で繁殖しており、おもに樹洞の中に巣を作りますが、巣はめったに見つかりません。渡りの季節には、その他の地域でも姿が見られることがあります。

# 気をつけていただきたいこと

- この調査は、みなさんの日常の生活の範囲内で行っていただくものです。ですから、この調査のためだからといって、わざわざふだんは行かないようなところへ出かける必要はありません。
- とくに、危険なところや立ち入りが制限されているようなところへは、お出かけにならないでください。また、調査は日中の明るいうちに行うようにしてください。
- 調査中に事故等に遭われてもお世話することができません。調査にあたっては事故やケガに十分ご注意ください。
- 個人の住宅や商店に作られた巣の写真をとる時や観察にあたっては、かならずそのお宅の方に声をかけて、了解をいただいでください。
- 今回の調査はツバメの巣の写真をとることによって、ツバメの分布を知るためのものです。ツバメを驚かせたりすることのないように注意してください。
- 小学生以下の方が調査される場合は、危険防止のため、かならず保護者の方や先生がご指導くださるよう、お願いいたします。

## さまざまな情報を マルチメディアで

身近な生きもの調査に関することはもちろん、その他の緑の国勢調査に関する情報などをFAX、インターネット、パソコン通信で取り出すことができます(情報は3ヶ月に1回程度で更新予定)。

①FAXサービス(NTT World Nature Network) .....FAX番号 03-5353-7460(4301#)

\*ダイヤル回線の場合は、ガイダンスが聞こえたら電話機のスイッチを「PB」または「トーン」に切り替えてください。

②インターネット(NTT World Nature Network) .....アドレス <http://www.wnn.or.jp/wnn-n/>  
(EICネット) .....アドレス <http://www.eic.or.jp/>

③パソコン通信(EICネット) .....アクセスポイント 03-3595-3271

\*NIFTY-ServeまたはPC-VANから接続する場合は「他のネットワークへの接続」のメニューから「EICネット」を選択。

本書はつぎの方々の協力を得て作成しました。

[企画検討]	自然環境保全基礎調査検討会 身近な生きもの分科会 梶 真史(厚木市教育委員会生涯学習課) (座長)大場 秀章(東京大学教授) 大森 雄治(横須賀市自然博物館学芸員) 浜口 哲一(平塚市博物館学芸員) 望月 賢二(千葉県立中央博物館自然誌・歴史研究部長)
[執筆協力]	浜口 哲一
[写真]	浜口 哲一・平田 寛重・高橋 健 ネイチャープロダクション
[図版]	秋山 幸也
[デザイン]	デザインルーム風都市



●調査のてびき●

■平成9年3月 第1刷発行  
■発行  
環境庁自然保護局  
計画課自然環境調査室  
〒100東京都千代田区霞ヶ関1-2-2  
TEL・FAX03-3591-3228

★再生紙を使用しています。